

買物公園北エリアにおける回遊性向上策の企画立案業務

最終提案書



平成30年9月18日

一般社団法人旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

検討委員

旭川信用金庫 地域振興部 部長 荒山 恭一

日本電気株式会社 カルチャー変革本部 主任 土屋 俊博

旭川大学 経済学部 教授 黒川 伸一

旭川医科大学 医学部 一般教育 社会学 講師 工藤 直志

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム 理事 竹中 英泰

- I. 本提案書作成の経過
- II. 買物公園北エリアの現状等
- III. 回遊性を高めるための施策提案
- IV. シンボル施設の設置に当たっての留意事項
- V. シンボル施設設置後の検討課題等について（補足事項）
- VI. 参考資料

I . 本提案書作成の経過

本提案書の作成の経過

- ① 平成30年5月9日 ～ 地域団体（NPO法人かわうそ倶楽部、旭川まちなかマネジメント協議会、三和・緑道商店会）に意見聴取
- ② 平成30年5月上旬から下旬 ～ 検討委員との個別会議
- ③ 平成30年5月下旬 ～ 旭川大学黒川ゼミナール学生による地域住民等のアンケート調査
- ④ 平成30年6月7日 ～ 第1回買物公園北エリア活性化策検討員会
- ⑤ 平成30年7月上旬 ～ 検討委員との個別会議（中間報告書の作成）
- ⑥ 平成30年7月20日 ～ 第2回買物公園北エリア活性化策検討員会及び旭川大学黒川ゼミナール学生による公園北エリア活性化策発表プレゼン
- ⑦ 平成30年8月下旬 ～ 検討委員との個別会議（最終提案書の作成）

Ⅱ．買物公園北エリアの現状等

買物公園北エリアの現状等

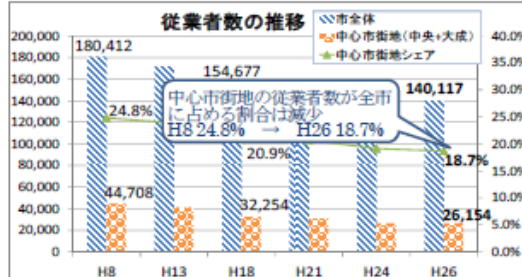
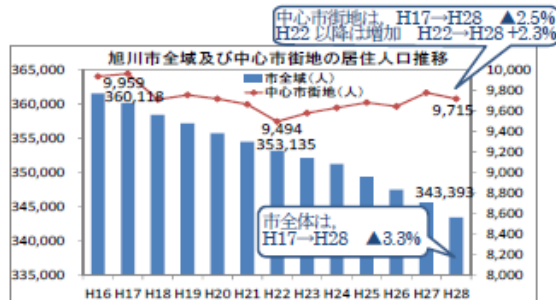
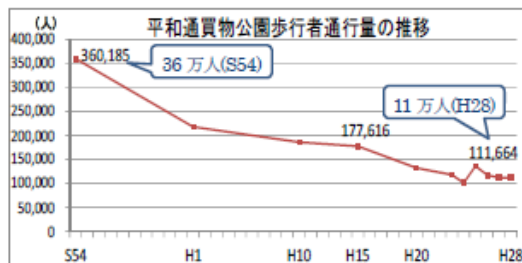
背景・現状

背景

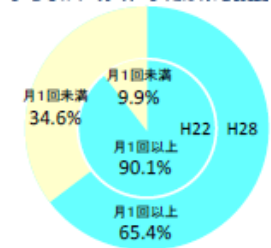
郊外での居住や大型集客施設の展開
買物、外出、レジャー等の目的地の選択肢が増加

中心市街地の相対的な価値や魅力が低下
中心市街地の賑わいが徐々に失われてきました

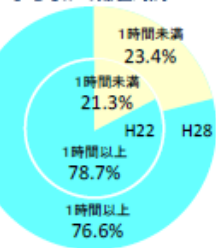
現状



まちなかに行く、または来る頻度



まちなかの滞在時間



中心市街地についての市民アンケート調査の主な意見

- ・民間レベルでの取組を盛り上げていかなければならない
- ・イベントの賑わいが一過性のものにとどまることがなく、日常の賑わいにつなげる仕組みが必要
- ・旭川独自の魅力を探し、発信・有効活用することが重要
- ・若者の視点での取組を支援し、将来のまちづくりに必要な人材を育てることが重要

旭川市 中心市街地活性化基本計画
(平成29年12月) から

中心市街地の状況

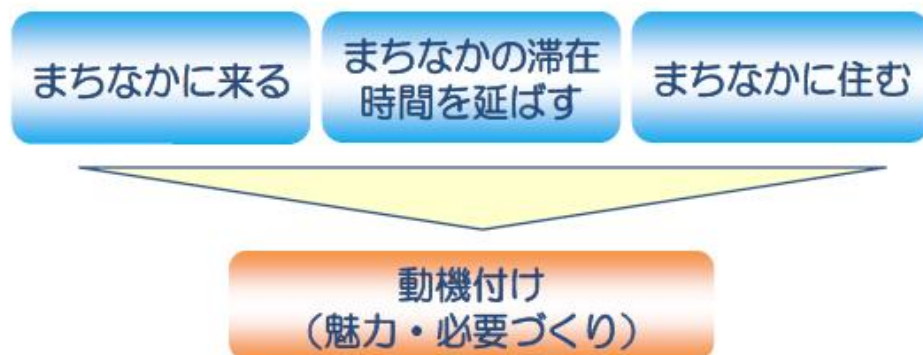
- ✓ 通行量は約40年前の1/3以下
- ✓ 従業者数は4.4万人→2.6万人
- ✓ 居住人口もH22以降持ち直すもピーク時に届かず
- ✓ まちなかに来る市民も減少

市民アンケートでは

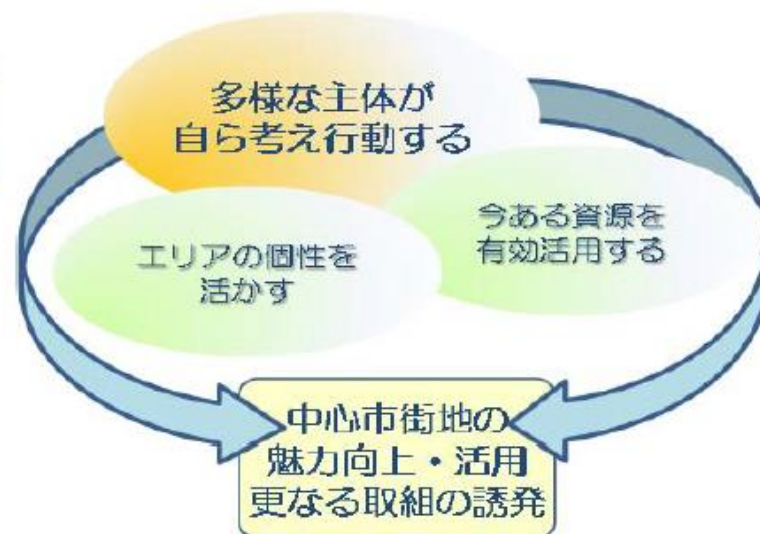
- ・民間レベルでの取組み盛り上げ
- ・日常的な賑わい
- ・旭川独自の魅力発信
- ・将来のまちづくりのための人材育成を求める声あり

課題・目標・推進指針

計画の課題・目標



推進指針



本基本計画に基づき、産官学連携により中心市街地の回遊性を高める検討を実施

今回の検討対象エリア

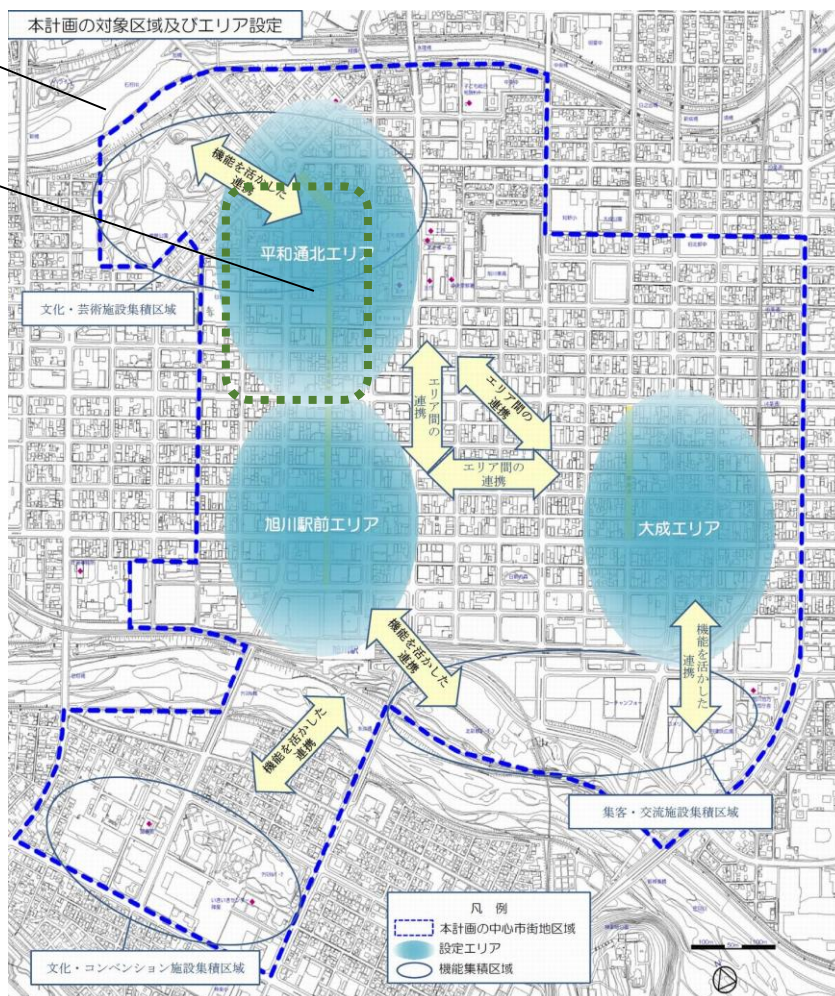
特に歩行者の減少が著しく、今後市庁舎の建替による人流獲得効果も期待し、平和通北エリアでの回遊性向上策を検討

青線：中心市街地エリア

緑線：本検討の対象エリア

「平和通北エリア」に包含
「文化・芸術施設候補区域」と設定

平和通北エリアは、常磐公園周辺に、旭橋やロータリー等地域を象徴する施設があるほか、豊かな緑を活かして緑道ライフスタイルマップの作成等市民による手づくりの文化の発信が行われています。また、旭川ラーメン、塩ホルモン等のソウルフードのほか、新たな名物を目指す食があります。高齢者が憩え、若者がチャレンジでき、安心して子どもを連れて来ることができる、「旭川の文化と食」を感じることができるエリアを目指します。

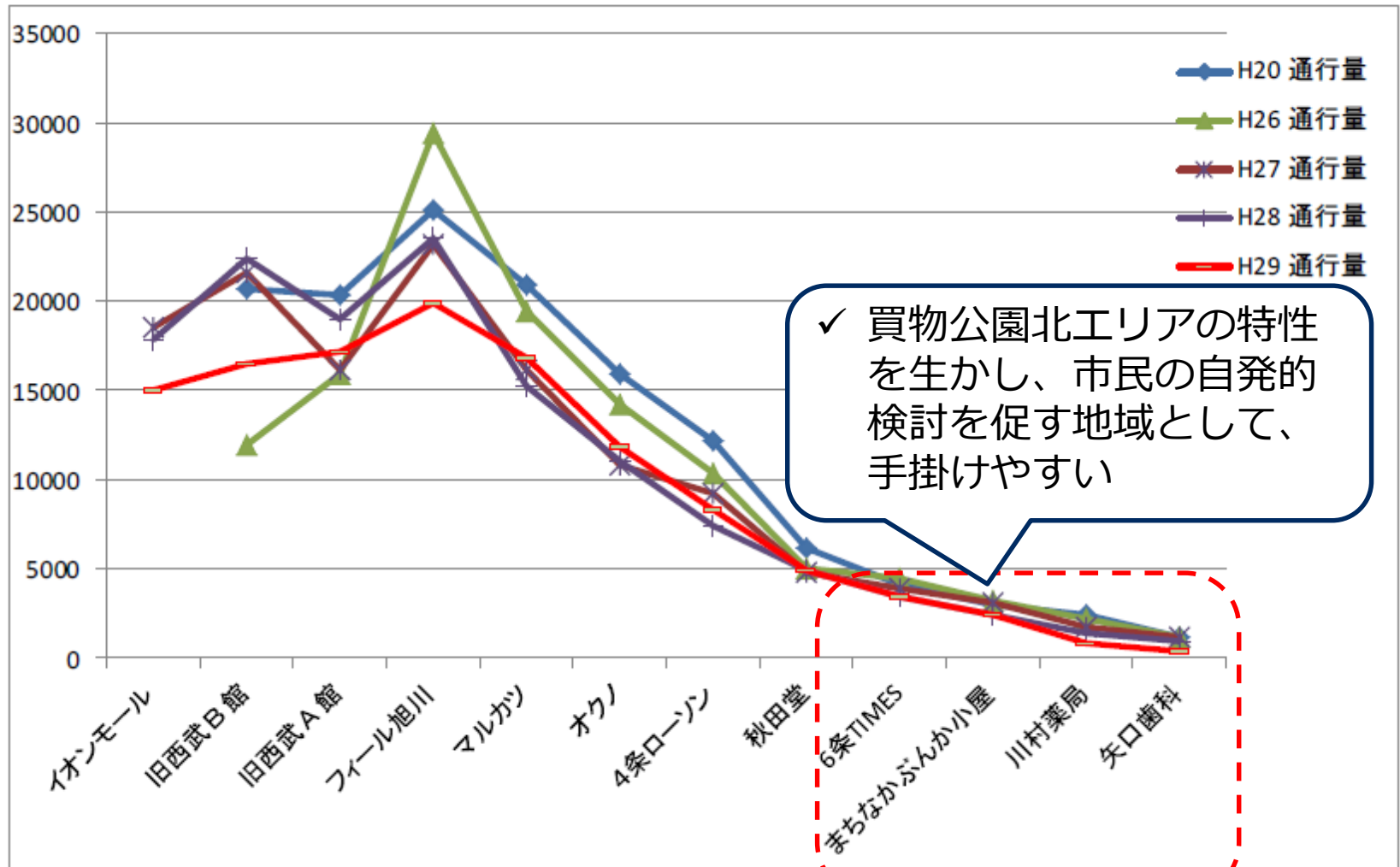


通行量の状況

フィール旭川から北へ行くほど通行量が減少 → 逆に考えると「施策効果が見えやすい」

旭川市 平成29年度 旭川平和通買物公園
通行量調査（平成30年1月）から

■通行量推移（地点別）



Ⅱ．回遊性を高めるための施策提案

買物公園北エリア（7条緑道エリア）を新たなスポットとして再創造

市民や観光客等との繋がりが希薄だった4条以北（買物公園北エリア）に7条緑道文化を発信するシンボル施設を整備

住民等の交流の場、地域の街並みを楽しんで歩く機会の創出など、新たな価値が創造されることを通じて、買物公園北エリアを訪れる新たな機会が生じ、従前よりも買物公園北エリアの回遊性の向上が見込める。



1. 緑道地域の魅力が引き出され、地域の個性や独自性がより明確になる。
2. 緑道地域を訪れる新たな機会（きっかけ）が創出される。
3. 緑道地域を歩く楽しさや文化に触れることが恒常的に可能となる。
4. 観光客のSNSによる情報発信地域PRの促進が期待できる。

- ① 回遊性を高めるための基本構想
- ② 旭川市の強みの活用
- ③ 施策の展開エリア
- ④ 恒常的な効果の発現
- ⑤ 地域の活力の導入
- ⑥ 本施策の効果

① 回遊性を高めるための基本構想 ～ エコミュージアムの発展・拡張 ～

本提案では、検討会で提案された「新たなパワースポットの創生するという内容」、「ストーリー性のあるものを歩きながらみれる仕掛けの整備」等の意見を総合的に勘案し、「エコミュージアム」の発想を基軸に内容を整理。

■ エコミュージアムの概念と検討エリアの状況等

地域資源を発掘・活用していくエコミュージアム※という発想は地域活性化手法の一つとして注目されている。

※ エコミュージアムとは、行政と住民が協働で構想・運営し、居住する地域の歴史・文化・生活を地域住民や来訪者に理解してもらうための場（文化的情報発信基地）である。歩きながら見学することが出来る恵まれた場であることから、観光誘客や地域住民の活動拠点としての機能など多様な面から地域社会の発展に大きく寄与する可能性を秘めているものである。

今回の施策提言を行うフィールド（平和通買物公園北エリア）では、緑道ワークス、NPO法人かわうそ倶楽部、三和・緑道商店会といった地域団体の活動が当該エリアの活性化に寄与している状況にある。また、これらの団体は、平成30年度に旭川市とエコミュージアムに係るソフト事業を展開するなど行政との協働にも実績があることから、エコミュージアムの下地は既に構築されている状況にある。

平和通買物公園北エリアは、旭川市中心市街地活性化基本計画にあるとおり、市民による手づくりの文化が醸成されているエリアであるため、地域の文化の発信基地としての役割を担うには最適の場所と判断される。

旭川市と地域団体等が協働でエコミュージアムとしての機能を発展・拡張することにより、「歩く」という行動から地域文化に触れられる恵まれた空間を整備することで、市民や観光客の来訪を促し、中心市街地の回遊性を高める効果を期待できる。

② 旭川市の強みの活用

本提案では検討会での中心部で旭山動物園を感じられるものを創設する方がよいという意見等を鑑み、旭山動物園を旭川市の強みとして整理。

■ エコミュージアムの概念（基本構想）と旭山動物園の関連

- 旭山動物園は運営が困難な状況から旭川市と市民の力により、国内でも有数の観光資源の一つにまで育てられてきた歴史（ストーリー）と「伝えるのは、命。」というテーマ（文化）を有する施設である。
- 旭山動物園は旭川市と市民の共有化された文化の一つであり、旭川市最大の観光資源という強みを有する。
- 検討会の中での学生による施策提案においても、旭山動物園は取り入れられており、若年層の意見としても旭山動物園は旭川市の強みと認識されている。
- 旭山動物園は広く市民や市民以外の観光客等に認知されており、施設自体が上述のストーリー及び文化を有しているという点で「旭川市の強み」、「エコミュージアム」双方の意味で最適な要素である。

③ 施策の展開エリア

本提案では検討会での昭和通・平和通買物公園・緑橋通の周遊性を高めることが必要との意見等と地域団体の意見を参考に7条緑道の常磐公園側で施策展開することを整理。

■ 地域団体からの意見と検討会での内容

- 地域団体から7条緑道の市役所側については、緑道地域等の団体で恒常的にイベント開催場所として使用している状況にあるため、ハード面の整備などにより、恒例行事となっているイベントの開催に支障が生じない提案内容にしてほしいとの要望がある。
- 7条緑道の常磐公園側は、トーヨーホテル、アートホテルが近接しているため、当該場所で施策展開をすると観光誘客の効果で昭和通と平和通買物公園の周遊性が高められる。また、OMO7旭川は宿泊客に地域の案内人（OMOレンジャー）による地域案内サービスを実施していることから、その観光誘客の効果で緑橋通と平和通買物公園の周遊性が高められる可能性がある。
- 7条緑道は、中心部で数少ない憩いのエリアであるので、その特性を活かした活性化策を展開できる。
- 7条緑道では、地域団体がエコミュージアムの取り組みを今年度から始めている。訪れるだけで7条緑道の文化等の情報を享受できる仕組みが現状ではないため、情報発信力を強化すると良い。

④ 恒常的な効果の発現

本提案では検討会での「新たなパワースポットの創生が必要」との内容を整理。

7条緑道エリアにおいては、平成30年度からエコミュージアムの取組が開始され旭川市と地域住民により地域資源が活用されている状況にある。更なる恒常的な文化発信という面では、今後、発展する余地を多分に含んでいる。

7条緑道エリアの回遊性向上に向けては、7条緑道の文化の「見える化」を促進し、市民や観光客が訪れた際に地域資源をストーリーでつないで見せる仕掛けの整備が必要。

そのため、エコミュージアムのシンボル施設（パワースポット）となるモニュメント等を整備することで、当該シンボル施設を中心に文化を発信する仕組みを構築することができる状況を創出し、緑道地域の文化発信力を強化させ、地域住民の賑わい創出や観光誘客につなげる施策が必要。

⑤ 地域の活力の導入（１／２）

緑道地域及び旭山動物園に共通する文化を同時発信する形式で、緑道地域におけるエコミュージアム機能の向上が期待する方向で整理。

■ 検討会の中で、あべ弘士氏は旭川市の資産的人物であり、新たなパワースポット（シンボル施設）を作る人物にしては良いのではないかとの意見がある。また、旭山動物園・7条緑道の文化発信に貢献している実績を有している。

■ 動物と人間の共存や命の大切さを伝えるあべ弘士氏の代表作である「エゾオオカミ物語」と、旭山動物園のテーマ「伝えるのは、命」とはテーマに類似性があり、エコミュージアムのシンボル施設のテーマとして最適と判断される。

■ 年間約140万人の来場者を誇る旭山動物園の来場者にも、旭川中心市街地での認知を期待。



旭山動物園内の展示

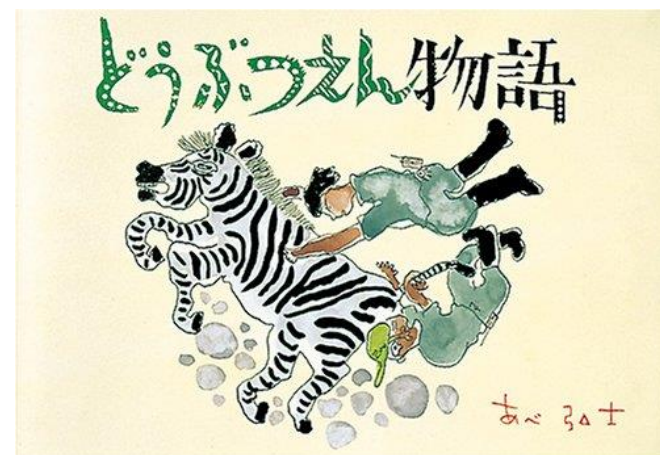
⑤ 地域の活力の導入（2／2）

7条緑道地域と旭山動物園を結びつけた文化発信が実現可能な存在として貴重な存在

■ 旭山動物園・7条緑道の文化発信に貢献している実績を有している貴重な人物であり、エコミュージアムのシンボル施設のデザインを担うには最適の人物である。

あべ弘士氏

- 旭山動物園の元飼育員・絵本作家
- 動物をモチーフにした作品を生み出す
- 旭山動物園をモチーフにした特急列車（旭山動物園号）のデザイン、ごみの収集車両に動物をモチーフにしたデザインを提供する等、旭山動物園のPR活動に貢献。
- 旭川大学短期大学部校舎に動物をモチーフにした木製レリーフを常設展示
- 緑道の活性化等に寄与する地域団体、緑道ワークスやかわうそ倶楽部で活躍



人の暮らしと自然やアートを結びつける創造的な活動を展開。文化発信者として実績

⑥ 本施策の効果 ～ 回遊させるストーリー作り ～

「命」をストーリーとして伝える教育的意義の深いスポットとする

ターゲット

- 未就学児・小学生を子に持つ親（3-40代）及び子ども

ストーリー（訪れる理由づくり）

- 旭山動物園に行ったついでに、「ここにも動物にまつわる何かがあるらしい」と話題作りを提供して市街地に呼び込む
- 市街地に滞在中、少し安らぐ場を求めて（カフェや緑など）行ってみる
- 小さなお子さんが遊びまわる、くつろげる場所として紹介する

滞在時の経験

- シンボル施設（モニュメント等）自体に触れ合う中で、緑道の自然・文化に親しみを持つ
- 「エゾオオカミ物語」のストーリーを掲示することで、地域の持続的開発の重要性について考える（教育的価値）

「エコミュージアム」×「旭山動物園」×「恒常的な回遊性向上策」から導き出される帰結として以下の施策をご提案します。

7条緑道エリアとゆかりの深いあべ弘士氏の代表作である「エゾオオカミ物語」をモチーフとして、7条緑道エリア固有の文化、歴史、伝統を伝えるモニュメントを7条緑道の常磐公園側に設置し、エコミュージアムのシンボル施設とする。

また、モニュメントの設置効果を高めるために、地域環境と調和した植生整備を提案する。

このことにより7条緑道エリアに眠る地域固有の文化が公然化され、現地で整備保存することで、地域のエコミュージアムとしての機能の拡張を図り、7条緑道エリアの回遊性向上が図られる。

期待できる効果は次のとおり

- ① 新たに地域文化に触れる機会の提供及び当該地域住民のアイデアを活用したソフト事業の新展開など、地域の価値を第三者に伝える機能の強化に伴うにぎわいの創出
- ② 観光資源としての機能付加を持たせることで、近隣ホテルに宿泊するインバウンド等の観光誘客

IV. シンボル施設の設置に当たって留意事項

シンボル施設（モニュメント）設置における留意事項

設置場所

7条緑道の常磐公園側（詳細は次頁の通り）

作成及びデザインの方針

■ 旭川工業高等専門学校及び旭川工業高等専門学校の学生と地域（あべ弘士氏）の協働による作品の製作

～ 若年層と地域の協力による地域の新たな文化発信拠点の創造 ～

■ エコミュージアムを体現するエゾオオカミ物語をモチーフにすること、旭山動物園での展示との連動性を意識したデザイン

【参考】



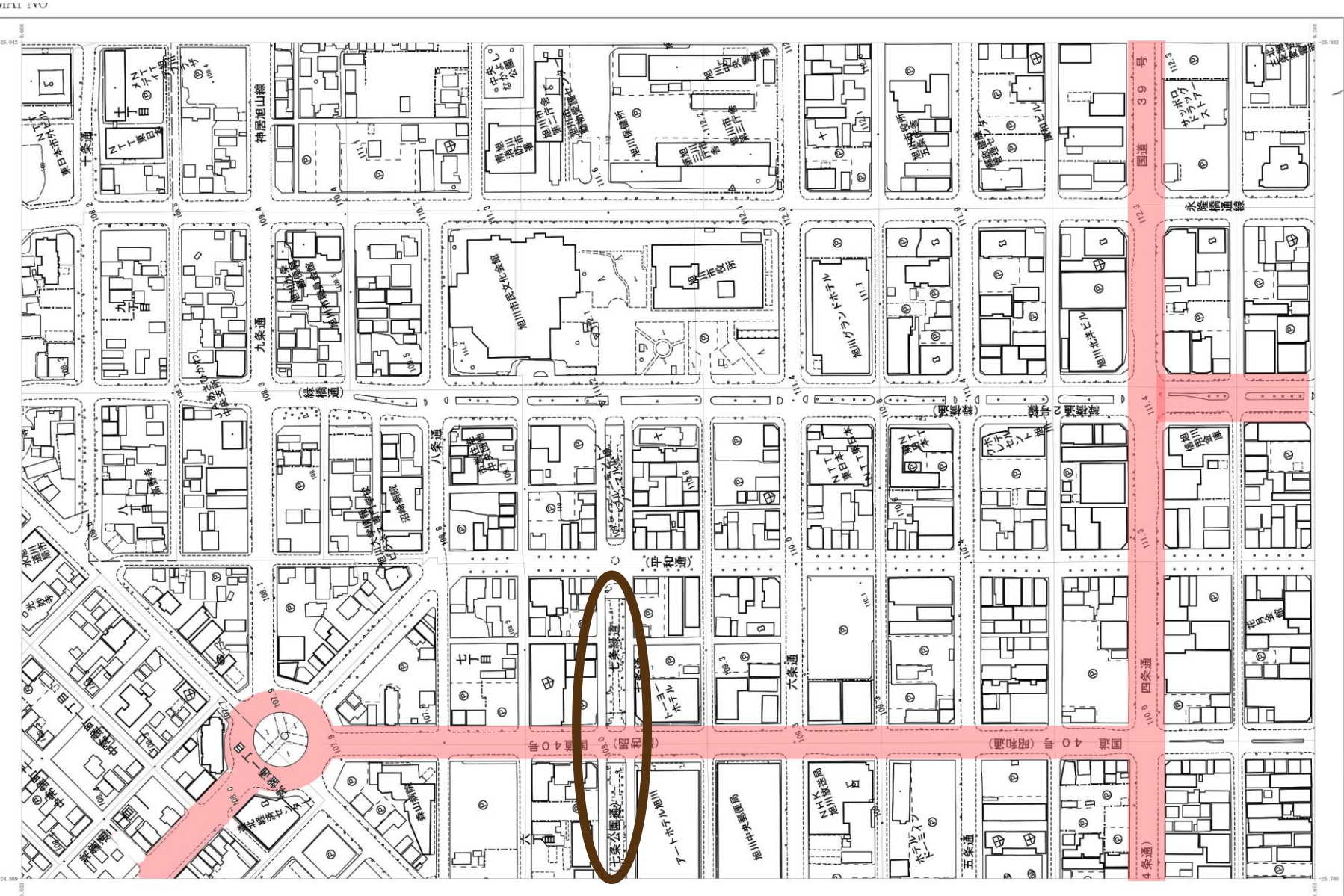
周辺環境の整備

7条緑道の地域環境と調和した植生整備を実施

モニュメント設置に係る 安全性の確認

公共の場に設置することから、専門的機関でのモニュメントの安全性確認が必要（一例として、旭川市内の高等教育機関では、AWBC構成校である旭川工業高等専門学校で対応可能である。）。

モニュメント設置提案場所



V. シンボル施設設置後の検討課題等について（補足事項）

(検討課題1)モニュメントの認知向上のために

実際に歩きたくなる、いってみたいくなるようなプロモーションの必要性

事例1 谷中銀座商店街

- 外国人観光客が多数訪れる、全国でも稀有な商店街
- 「七福猫（7匹の木彫り猫）」の設置による宝探し感誘発
- 歩きながら食べられるモノが人気に



#アルカルは歩く文化を生む協創の場を目指す

事例2 #アルカル

- 「歩く」+「カルチャー」を考える異業種連携の取組み
- 人が「歩きたくなる」ような企画の検討を実施



事例3 カメラガールズ

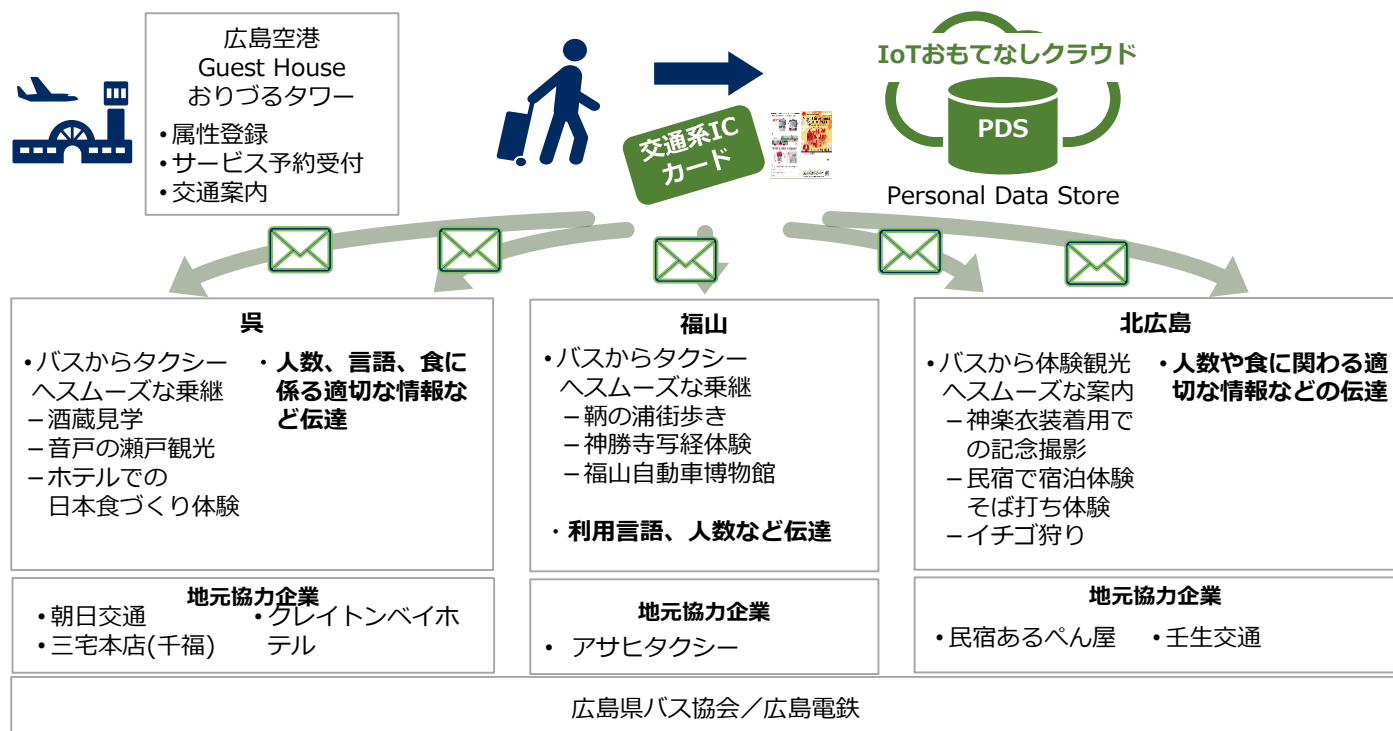
- 日本最大のカメラ女子サークル
- <https://www.camera-girls.net/spot/hokkaido/>
- 全国都道府県ごとに分類
- 北海道はまだ3件



(検討課題 2) 回遊状況の評価

地域サービス事業者との連携により、来街者の特性を取得し、継続的な回遊促進計画の見直し

事例：広島での実証



(検討課題3) 持続可能な街づくりへの寄与

将来的にSDGs未来都市・自治体SDGsモデルを目指し旭川市での実証も

SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業について

別紙1

概要

中長期を見通した持続可能なまちづくりのため、地方創生に資する、地方自治体による持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた取組を推進していくことが重要。

SDGs推進本部会合における安倍総理指示を踏まえ、地方創生分野における日本の「SDGsモデル」を構築していく。

平成30年6月15日、公募の結果、自治体によるSDGsの達成に向けた優れた取組を提案する**29都市**を

「**SDGs未来都市**」として選定。また、特に先導的な取組**10事業**を「**自治体SDGsモデル事業**」として選定。

今後、これらの取組を支援するとともに、成功事例の普及展開等を行い、地方創生の深化につなげていく。

2018年6月に、
29都市がモデル
選定

●北海道内では、
札幌市、ニセコ、
下川町が選定

「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」における取組

SDGs未来都市(29)

①自治体のSDGs推進の
ための取組

②SDGs達成に向けた
事業の実施

自治体SDGsモデル事業 (10)

上限4千万円／都市 定額補助 上限2千万円
定率補助(1/2) 上限2千万円

①経済・社会・環境の三側面の統合的
取組による**相乗効果**の創出

②**自律的循環**の構築

③多様なステークホルダーとの**連携**

成功事例の普及展開

選定都市の成功事例を
国内外へ情報発信

・**イベントの開催**
・**幅広い世代向けの
普及啓発事業** 等

自治体SDGs推進関係省庁タスクフォースによる 省庁横断的な支援

計画
策定

○選定都市の事業計画策定への支援

○各省庁支援施策活用等の助言

事業
実施

○各省庁支援施策を選定都市に集中投入

○取組状況フォローアップの評価基準作りへの参画

2030年

持続可能なまちづくり

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS
世界をより良くするための17の目標



VI. 參考資料

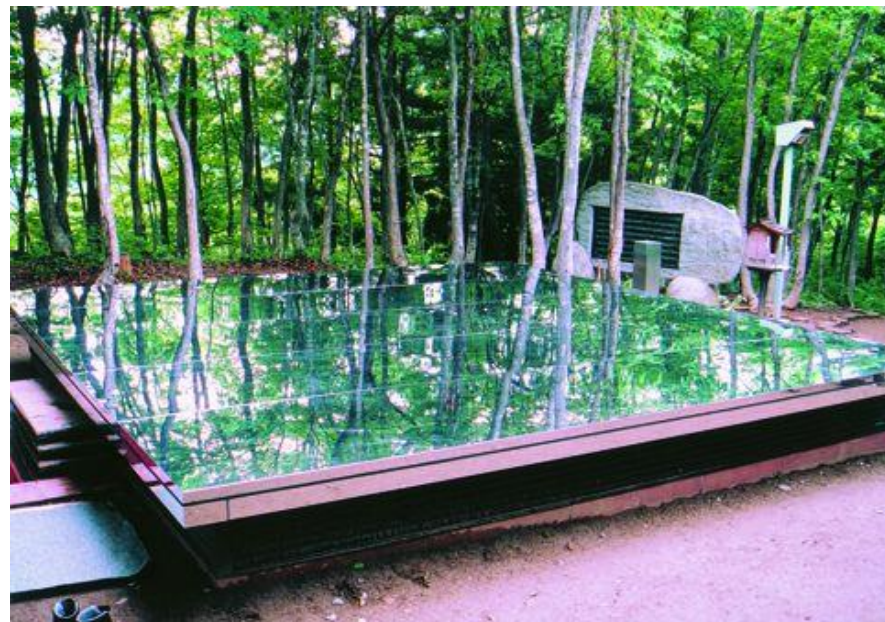
■ エコミュージアムの定義

- ① エコミュージアムは**行政と住民が一緒に構想**し、運営していくものであり、行政は専門家と施設や資金を、住民は知識と能力を提供しあって作り上げていくものである。
- ② エコミュージアムは居住する地域の歴史・文化・生活などを理解して**住民が自らを認識する場**であるとともに、**来訪者に自らが生活する地域を理解してもらうための場**でもある。
- ③ 人間は**伝統的社会・産業社会の中でも自然と関わって生活**してきており、それを理解する場所がエコミュージアムである。
- ④ エコミュージアムは先史時代から現在に至るまでの時間の流れの中で人々の生活を捉え、**未来を展望していくもの**である。しかし、エコミュージアムは未来を決定する機関ではなく情報と批評的分析の役割を果たすところである。
- ⑤ エコミュージアムは**歩いたり、見学することができる恵まれた空間**である。
- ⑥ エコミュージアムは外部研究機関と協力しながら地域研究に貢献し、**その分野の専門家を育成する「研究所」**である。
- ⑦ エコミュージアムは**自然遺産や文化遺産を保護し、活用を支援する「保存機関」**である。
- ⑧ エコミュージアムは地域研究や遺産の保護活動に住民の参加を促し、**将来、想定される地域の様々な問題に対し理解を深めるための「学校」**である。

(出典「エコミュージアムについて」法政大学教授 馬場憲一)

山形県朝日町「空気神社」(H2建立)

- 「ブナの原生林が多い自然豊かな朝日町には、一番大切である空気に感謝する空気神社が必要」と提唱
- 観光協会を中心に町民各層を巻き込んだ運動が展開
- 家族旅行村があるブナ林に囲まれた小高い山の上に、本体を地下に埋めた5m四方のステンレス製版の鏡だけのモニュメントである空気神社を作成
- 空気神社は世界でも類をみない「空気」を御神体とする神社であり、空気神社の完成により、自然との共生を目指した朝日町エコミュージアムのシンボルが完成
- 空気神社をシンボル施設として「空気まつり」等のイベントが開催



世界環境デーの6月5日を「朝日町空気の日」と条例で制定し、その日と最寄りの土・日に「空気まつり」が開催。地下の「神社本殿の御開帳」、地元小学生による「みこの舞」奉納、「浮島雅楽」の演奏などが行われ、新緑が輝く中、とても神秘的なイベントです。

シンボル施設の設置により、エコミュージアム機能の拡張が図られ、地域住民による賑わいの創出や観光誘客に繋がった。